



三のうまのり
びんがた
九共新
九共新

13
多



小寺
玉足文庫

待育子里ついでに
義後國難始このころの

けいせいの夫つよ意い様ざうり 二の巻にあり

いづれもまのつきさがるちのりの里わげや侍なりそらぞん括ておれはあ

らりまたいぬあふり皆くまのつしに教と侍なりふそらぞんかすふん

森あふいたとちをわけぬる雲のりは雲来りたてうーを月影とてさ

をそきへ侍なりふあふたうーさよびよかおと新を町へ風ふ吹わびへ

あつ侍なりふたうーさるを念せこれとら雲をうーた中をわけ念

たうーと新たあふたをれがとぶのた付を後やをるをせバ新を雲と

もが方後をてこれ侍なりをれむ侍なりとてこれあもたねと小月金

六言あの内言あことりはて侍り或言あ今もあ侍りをうーとて新

がてん仕ますまのと云あうーはむ方八百あて侍りまてとてあ

やうあやこえまあふと侍なりふらあむけい新をまうーをわ

聖世姫は老定女
 なるく二在後金
 縁せおひきり車
 足らぬ侍は喜
 実を侍はふり世
 在者侍は美世
 三三三三三三三
 けれ侍は美世
 かしらふり世
 がらふり世
 ありおひきり車
 手力を侍は美世



三保本
 大い
 二保本
 大い
 五郎
 小判
 美世姫
 美世姫
 美世姫

三三三三三三三
 かしらふり世
 がらふり世
 ありおひきり車
 手力を侍は美世



三三三三三三三
 かしらふり世
 がらふり世
 ありおひきり車
 手力を侍は美世

一階の機
 松平源之助の病
 引く大寺の木を
 松平源之助の病
 引く大寺の木を
 松平源之助の病
 引く大寺の木を



一階の機
 松平源之助の病
 引く大寺の木を
 松平源之助の病
 引く大寺の木を



そんごふをえりし事
善くおれは事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり



大なる事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり
事なり事なり事なり



ざつとぬきつておれりや
 聖徳太子仁義を
 へんももてんや
 小けのちきりたれん
 まじりけりや
 其のさかたに
 と名をたれん
 ぬきつて
 言ふつれぬ
 むと入はと
 小徳を
 源を



我れぬとて
 新き
 金平
 玉に
 むと
 の金
 志れ
 しと
 室
 小
 ち
 ぬ



江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで

江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで

江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで
 江戸の男盗女盗のついで



花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを
 花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを



花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを
 花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを

出候きふうくもと
 ありしちりてあはれ
 ありてあはれなるを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを
 花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを



出候きふうくもと
 ありしちりてあはれ
 ありてあはれなるを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを
 花世はあはれなるを
 ちかひのちの中お尋ね
 なりて人の心おれを
 わりてあはれなるを
 のちお尋ねなるを

